

ARIBの動き

第142回業務委員会が開催される

第142回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成20年7月9日(木) 午後2時から4時まで
- 2 場所 当会第2会議室
- 3 議事概要

次の事項について事務局から報告及び説明がありました。

- (1) ICT国際協力活動の体制
- (2) ARIBが事務局を務める任意団体の動向
- (3) 我が国の国際競争力を強化するためのICT研究開発・標準化戦略
- (4) 日伯DTV共同作業部会第4回会合の結果
- (5) 当会の活動状況

電気通信・放送
行政の動き

「ICT成長力懇談会 最終報告書 “xICT”ビジョン」の公表
(平成20年7月3日総務省報道発表)

総務省では、世界最先端の情報通信基盤を活用することによって、成長力強化に結実する政策を幅広い見地から戦略的に検討するため、平成20年2月から「ICT成長力懇談会」（座長：村上輝康 株式会社野村総合研究所シニア・フェロー）を開催してきました。このたび、同懇談会において最終報告書が取りまとめられましたので、公表します。

1 背景等

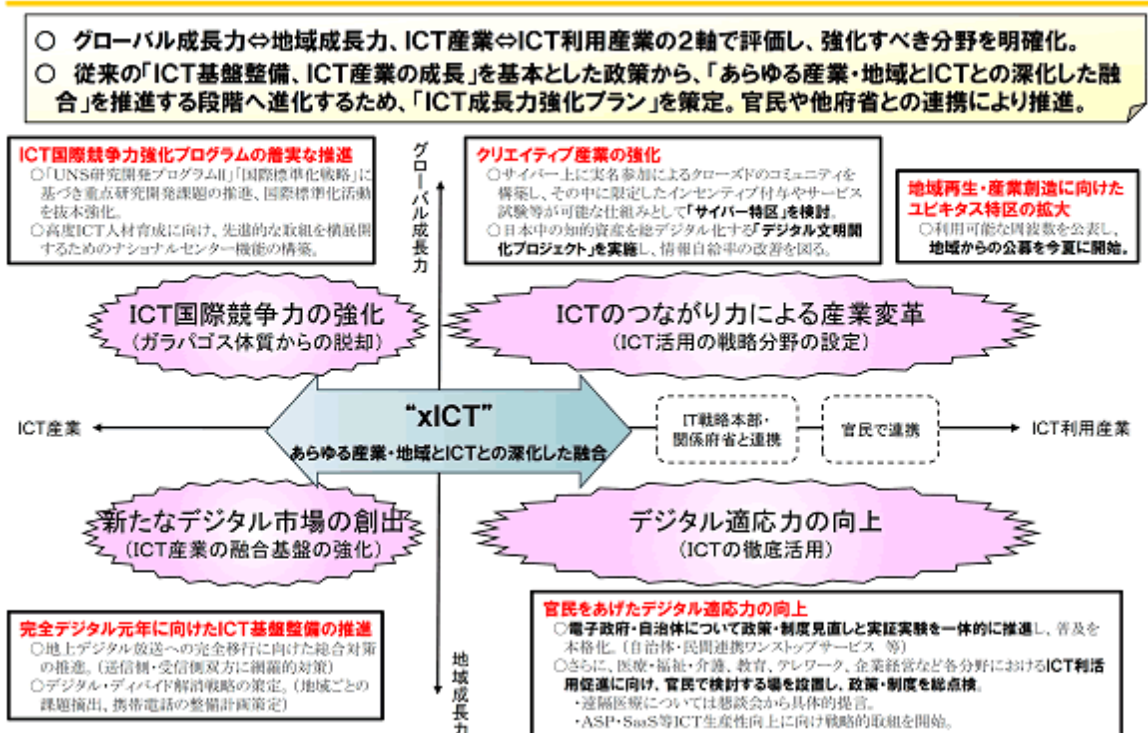
「国際的な存在感の低下」と「地域間格差の拡大」が喫緊の課題となる中、これらに対応するために、「グローバル成長力」と「地域成長力」の双方が必要です。世界最高水準の情報通信基盤環境を達成したわが国では、ユビキタスネット社会の実現によって、“e”の世界から“u”の世界へ進み、ICTの利活用がより進化する時代を迎えますが、産業と地域がICTとの深化した融合を遂げ、生まれ変わることによって、成長力が強化されることが期待されます。

このような認識のもと、「ICT成長力懇談会」では、世の中の「原則」を変え、ICTの徹底活用を促す改革のコンセプトとして、“xICT”（エックス・アイ・シー・ティ）を打ち出し、最終報告書として「“xICT”ビジョン」を取りまとめました。“xICT”は、ICTを掛け合わせる（掛け算する）という意味で、さまざまな産業や地域が、“e”の世界から“u”の世界へ進む中でICT利用を深化させることにより、生まれ変わることを示すものです。

今後、総務省では本報告書に基づき、あらゆる産業・地域とICTとの深化した融合を促し、ICTと成長力を結ぶ経路を集中強化するための政策を展開してまいります。

詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080703_6.html>を参照してください。

ICT成長力強化プラン



トラヒックからみた我が国の通信利用状況 平成18年度における利用状況 (平成20年4月25日総務省報道発表)

総務省は、電気通信事業報告規則（昭和63年郵政省令第46号）の規定に基づき、電気通信事業者から報告のあった平成18年度分の音声トラヒックデータについて取りまとめましたので、公表します。

1 経緯

総務省は、電気通信事業報告規則に基づき、電気通信事業者から電気通信サービスに係る通信量等の状況について報告を求めているところです。

この度、平成18年度分のトラヒックデータを取りまとめましたので、公表します。

2 目的

本調査は、国民生活や社会経済活動に不可欠な電気通信サービスの在り方を検討するために、その利用動向を客観性、信頼性のあるデータに基づいて把握すること、また、そのデータを公表することにより、国民利用者の電気通信サービスに対する理解を深めていただくことを目的としています。

3 概要等

(1) 契約数等の推移

(ア) 固定系（加入電話・ISDN）全体では、5,516万契約で対前年度5.0%減少。加入電話は4,817万契約で対前年度4.7%減少、ISDNは700万契約で対前年度6.6%減少。

(イ) IP電話の利用番号数は、1,448万件で対前年度26.4%増加。

(ウ) 移動系（携帯電話・PHS）全体では、1億170万契約で対前年度5.4%増加。携帯電話は9,672万契約で対前年度5.4%増加、PHSは498万契約で対前年度6.1%増加。

	14年度末	15年度末	16年度末	17年度末	18年度末
加入電話	5,116 (0.3%)	5,159 (0.8%)	5,163 (0.1%)	5,056 (▲2.1%)	4,817 (▲4.7%)
ISDN	961 (▲6.9%)	863 (▲10.2%)	(▲7.5%) 749 (▲7.5%)	749 (▲6.1%)	700 (▲6.6%)
固定系・合計	6,077 (▲0.9%)	6,022 (▲0.9%)	5,961 (▲1.0%)	5,805 (▲2.6%)	5,516 (▲5.0%)
IP電話・利用番号数		528 —	830 (57.4%)	1,146 (37.9%)	1,448 (26.4%)
携帯電話	7,566 (9.5%)	8,152 (7.7%)	8,700 (6.7%)	9,179 (5.5%)	9,672 (5.4%)
PHS	546 (▲4.2%)	514 (▲6.0%)	448 (▲12.8%)	469 (4.8%)	498 (6.1%)
移動系・合計	8,112 (8.4%)	8,665 (6.8%)	9,147 (5.6%)	9,648 (5.5%)	10,170 (5.4%)

(2) 国内通信の推移

(ア) 平成18年度の総通信回数は、1,199.2億回で対前年度1.0%減少。

(イ) 平成18年度の総通信時間は、43.3億時間で対前年度0.8%減少。

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
総通信回数（億回）	1,323.9	1,300.0	1,264.8	1,211.2	1,199.2
（対前年度比増減）	(▲4.3%)	(▲1.8%)	(▲2.7%)	(▲4.2%)	(▲1.0%)
総通信時間（百万時間）	5,747	5,198	4,673	4,362	4,327
（対前年度比増減）	(▲12.5%)	(▲9.6%)	(▲10.1%)	(▲6.7%)	(▲0.8%)

(3) 国内通信の通信回数

(ア) 国内通信の通信回数を発信種類別に見ると、固定系発信は596.2億回で対前年度6.4%減少、IP電話発信は58.0億回で対前年度67.3%増加、携帯発信は526.0億回で対前年度0.7%増加、PHS発信は18.9億回で対前年度11.4%増加。

- (イ) 通信回数の発信種類別比率は、固定系発信が49.7%、移動系発信が43.9%、IP電話発信が4.8%で、固定系が占める割合が低下し、IP電話が占める割合が増加。

(単位：億回)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
総通信回数	1,323.9	1,300.0	1,264.8	1,211.2	1,199.2
<対前年度増減>	<▲4.3%>	<▲1.8%>	<▲2.7%>	<▲4.2%>	<▲1.0%>
固定系発信 (全体比)	827.2 (62.5%)	774.4 (59.6%)	703.7 (55.6%)	637.3 (52.6%)	596.2 (49.7%)
<対前年度増減>	<▲8.6%>	<▲6.4%>	<▲9.2%>	<▲9.4%>	<▲6.4%>
IP電話発信 (全体比)			27.0 (2.1%)	34.7 (2.9%)	58.0 (4.8%)
<対前年度増減>			—	<28.4%>	<67.3%>
携帯発信 (全体比)	474.5 (35.8%)	504.4 (38.8%)	516.8 (40.9%)	522.3 (43.1%)	526.0 (43.9%)
<対前年度増減>	<4.9%>	<6.3%>	<2.5%>	<1.1%>	<0.7%>
PHS発信 (全体比)	22.2 (1.7%)	21.3 (1.6%)	17.2 (1.4%)	17.0 (1.4%)	18.9 (1.6%)
<対前年度増減>	<▲15.1%>	<▲4.1%>	<▲19.0%>	<▲1.5%>	<11.4%>

(4) 国内通信の通信時間

- (ア) 国内通信の通信時間を発信種類別に見ると、固定系発信は2,063百万時間で対前年度9.0%減少、IP電話発信は297百万時間で対前年度41.0%増加、携帯発信は1,816百万時間で対前年度4.3%増加、PHS発信は151百万時間で対前年度6.3%増加。

- (イ) 通信時間の発信種類別比率は、固定系発信が47.7%、移動系発信が45.5%、IP電話発信が6.9%で、通信時間についても、通信回数同様、固定系が占める割合が低下し、移動系及びIP電話が占める割合が増加。

(5) 国内通信の相互通信状況

- (ア) 国内通信の相互通信状況を通信回数で見ると、固定系発固定系着の割合は43.5%、移動系発移動系着の割合は33.2%、IP電話発IP電話着の割合は0.6%。

- (イ) 国内通信の相互通信状況を通信時間で見ると、固定系発固定系着の割合は43.1%、移動系発移動系着の割合は35.8%、IP電話発IP電話着の割合は1.1%。

(6) 国際電話の推移

- (ア) 平成18年度の通信回数は、発着信合計で1,430.0百万回、対前年度17.2%増加。また、通信時間は、発着信合計で5,976.6百万分、対前年度0.9%増。

- (イ) 平成18年度の1通信回数当たりの平均通信時間は、前年度より40秒減少し、4分11秒。

(ウ) 平成18年度の発信回数は734.8百万回、着信回数は695.2百万回。また、発信時間は3,952.1百万分、着信時間は2,024.5百万分。

詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080701_2.html>を参照してください。

編集後記

先日、マンションの敷地の草刈りに参加しました。住民の親睦を図るために毎年この時期に実施しているものです。いつもなら蜂の巣を発見したとか、毛虫がいるとか、何らかのアクシデントが発生し大騒ぎするのですが、今年は何もなくスムーズに終わりました。アクシデントがあっても困るのですが、なければなくて、逆に何か拍子抜けした気になります。気候変動のせいで、虫たちがいなくなったのではとまで考えるのは思い過ごしでしょうか？

ともあれ、無事に終わって良かったのですが、日頃の運動不足のせいか結構疲れしました。親睦が主な目的なので、それなりにやればいいのですが、一旦やり始めるとなかなか止まりません。しかし、草刈の時のあの独特の香りは私にとっては気持ち良いもので、何か心地良い疲れでした。お酒にはあまり強い方ではありませんが、草刈で汗をかいた後のビールは格別でした。

(N.K.)

[ページの先頭に戻る ▲](#)